

200万人以上が運転中？

認知症ドライバーの現状と、 高齢者の運転に関する 意識調査

2014/9/27 JAF Mate編集部 鳥塚俊洋

事故当時91歳認知症、要介護4の男性
徘徊中に線路に侵入
電車にはねられて死亡



鉄道会社は、
介護をしていた91歳(現在),要介護1の妻と
63歳(現在)の息子に、賠償請求



裁判

認知症患者が事故にあったときの責任例

愛知県大府市の2007年の鉄道事故の場合

[名古屋地裁の1審]

鉄道会社の主張をほぼ認めた
妻と息子に、約720万円の支払を命じた

[名古屋高裁の2審]

鉄道会社の管理不備を一部認めた
妻と息子に、約360万円の支払を命じた

認知症患者が事故にあったときの責任例

愛知県大府市の2007年の鉄道事故の場合

- ・ 認知症の高齢者 462万人
- ・ 軽度認知障害(MCI)の高齢者 約400万人
- ・ 高齢者の免許保有率 約44%
- ・ ペーパードライバー率 3~4割 (ネットアンケートによる)
- 認知症のドライバー 約120万人
- 認知症 + MCIのドライバー 約230万人

**路上の車の約5%は、認知症またはMCIの
ドライバーの可能性がある。**

認知症のドライバーはどれくらいいるのか？

(割合 (%))		講習予備検査の結果			
		第1分類	第2分類	第3分類	受検なし
免許の 状態	有効免許	93.2	98.4	99.5	
	失効	4.4	1.2	0.3	87.8
	申請取消し	1.6	0.2	0.0	8.8
	認知症取消し	0.5	0.0	0.0	0.0
	その他	0.3	0.2	0.1	3.4
	失効+申請取消し+ 認知症取消し	6.5	1.4	0.4	

講習予備検査の状況

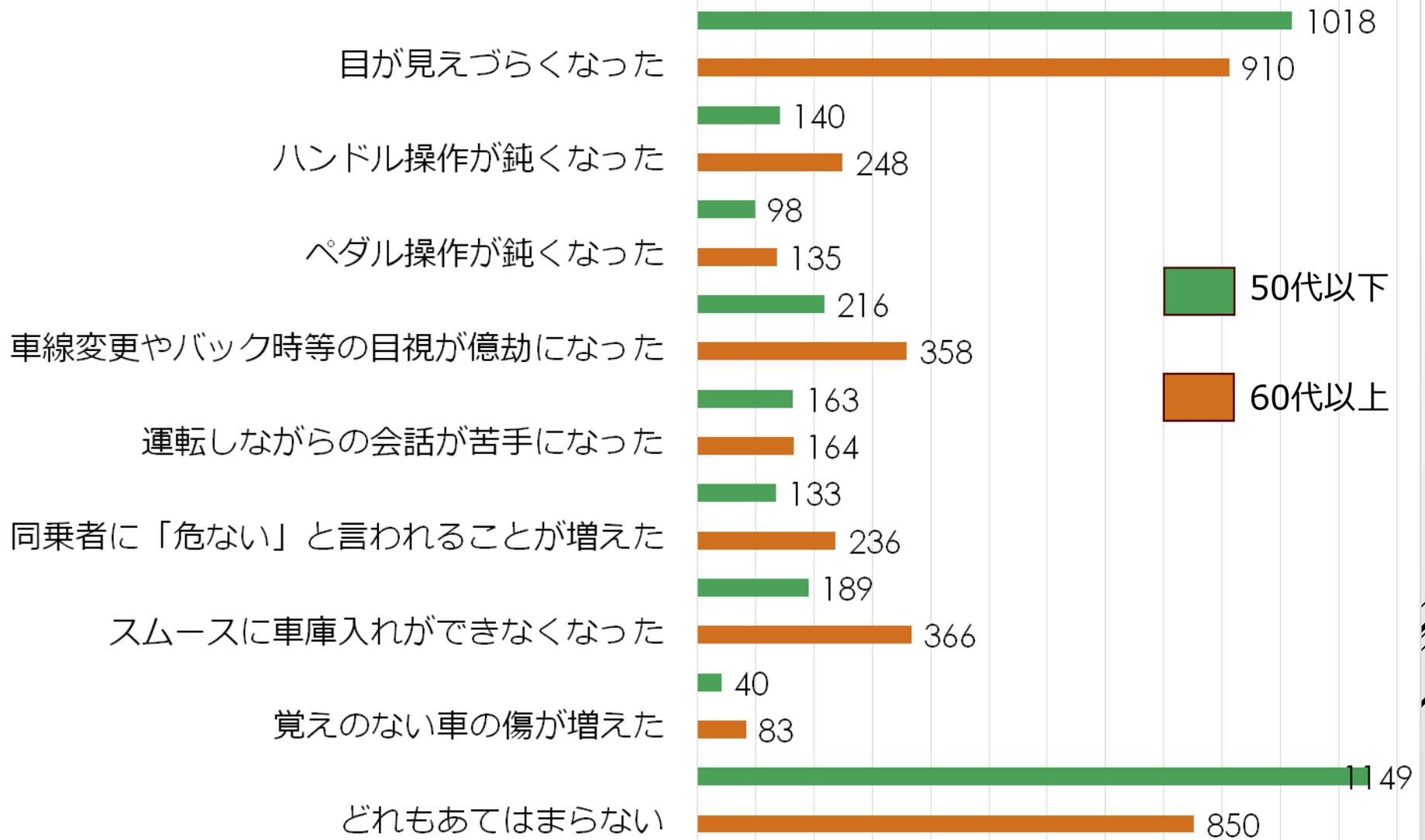
平成21年12月～平成22年5月に免許証の有効期間を終える
75歳以上のドライバー対象

認知症のタイプ	交通事故率	事故危険運転特徴
アルツハイマー型認知症(n=41)	39.0%	迷子運転 枠入れで接触事故
血管性認知症(n=20)	20.0%	操作ミス 速度維持困難
前頭側頭葉変性症(n=22)	63.6%	信号無視、追突事故 わき見運転
全体(N=83)	40.9%	

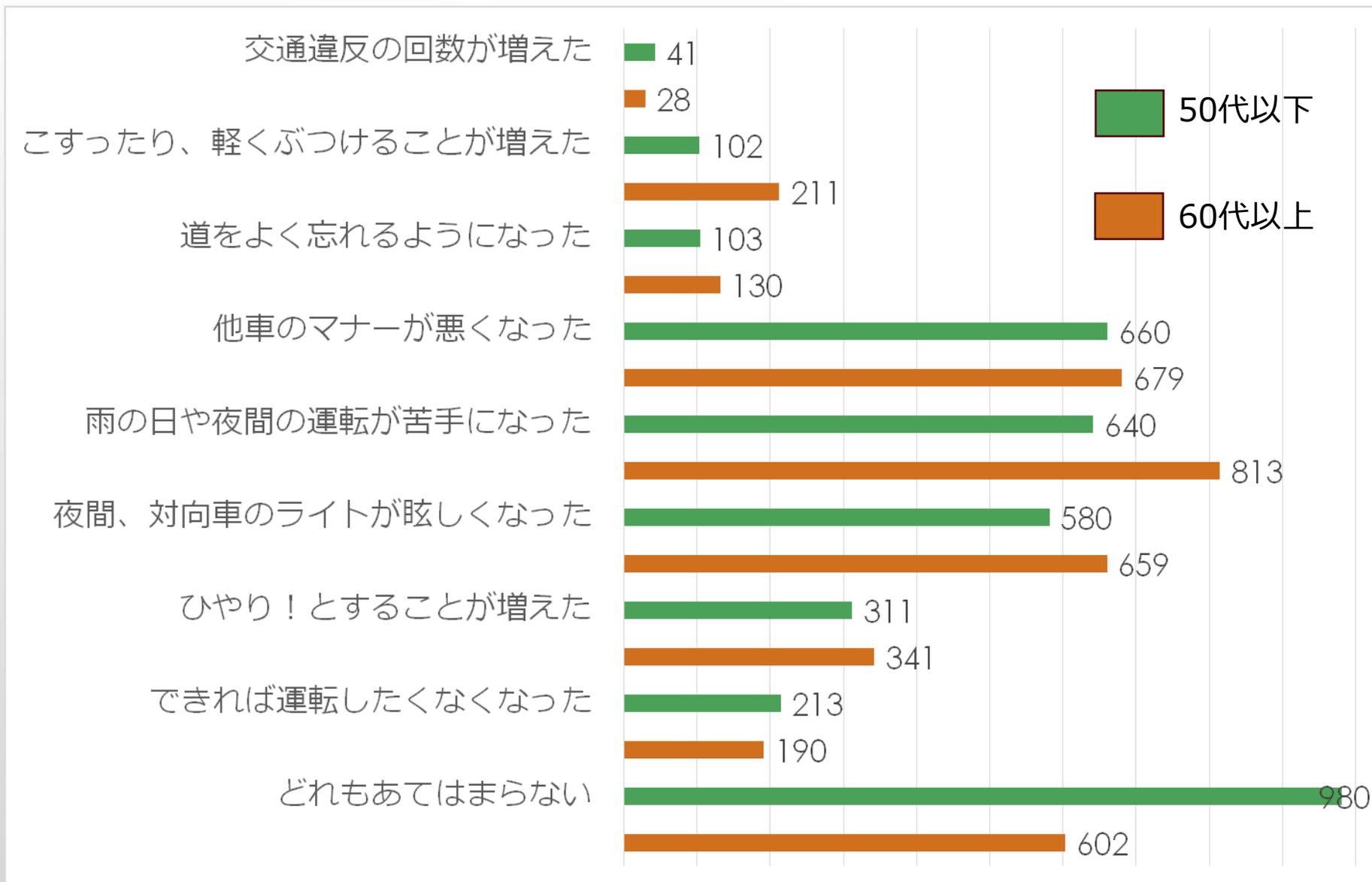
交通事故率と事故内容の調査結果 (認知症のタイプ別)

- 2014年7～8月 インターネット上で実施
- 有効回答数 4536件
(去年は750件)
- 30歳代以下8% 40歳代19%
50歳代26% 60歳代30%
70歳代以上17%
(昨年同様)

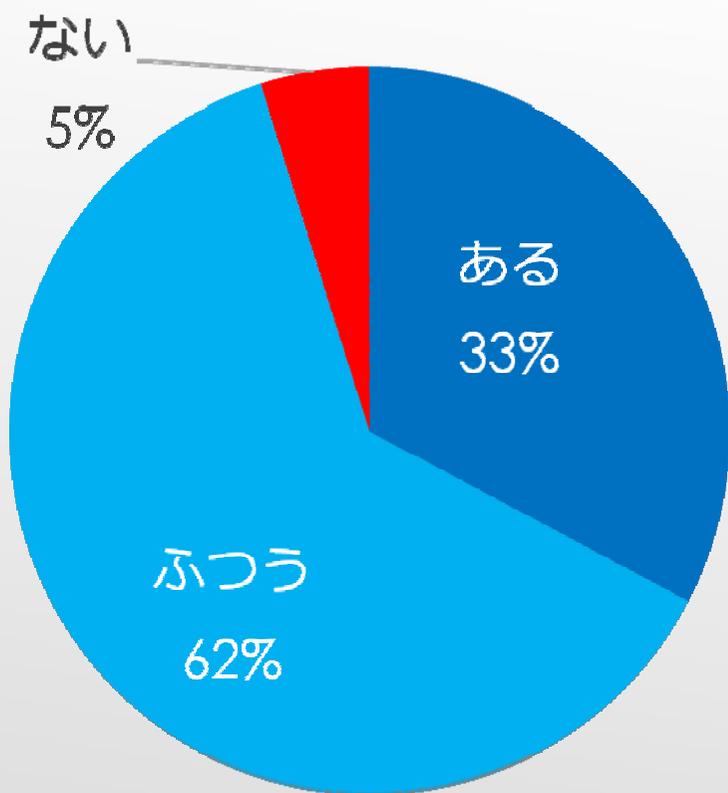
JAF MATE 運転と高齢化についてのアンケート



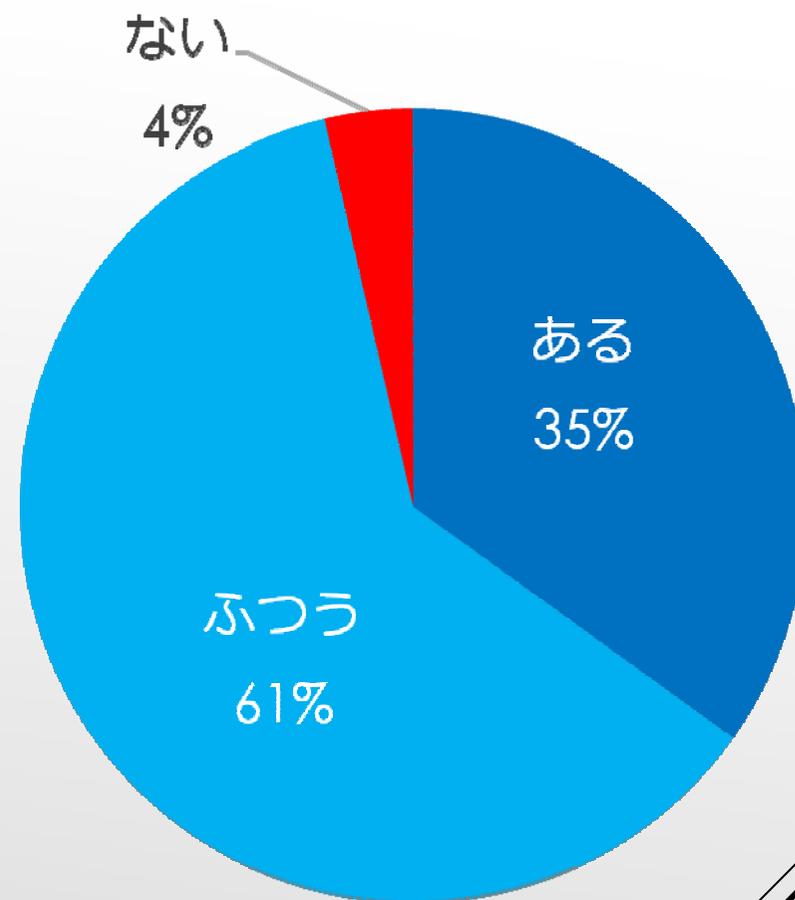
Q：この10年で自分の運転が変わりましたか？



Q：この10年で自分の運転が変わりましたか？

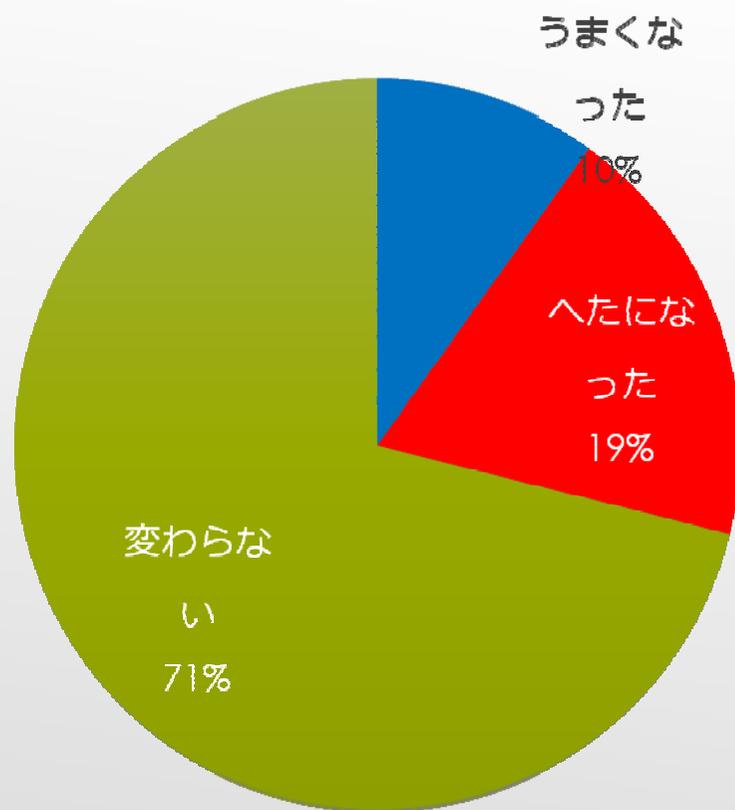


50代以下

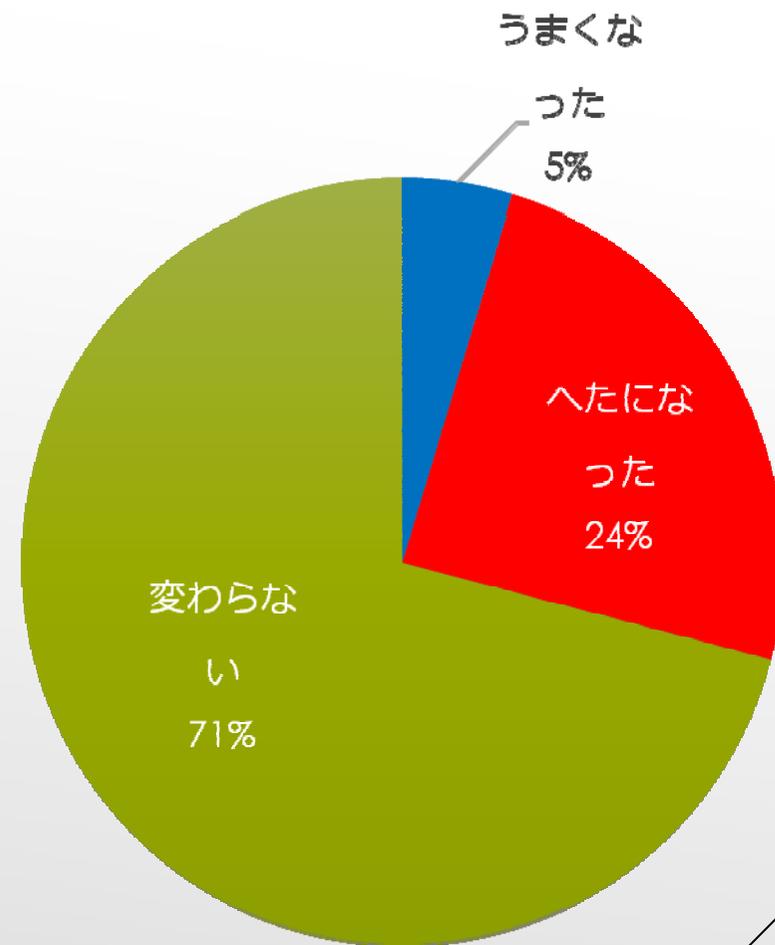


60代以上

Q：運転に自信がありますか？

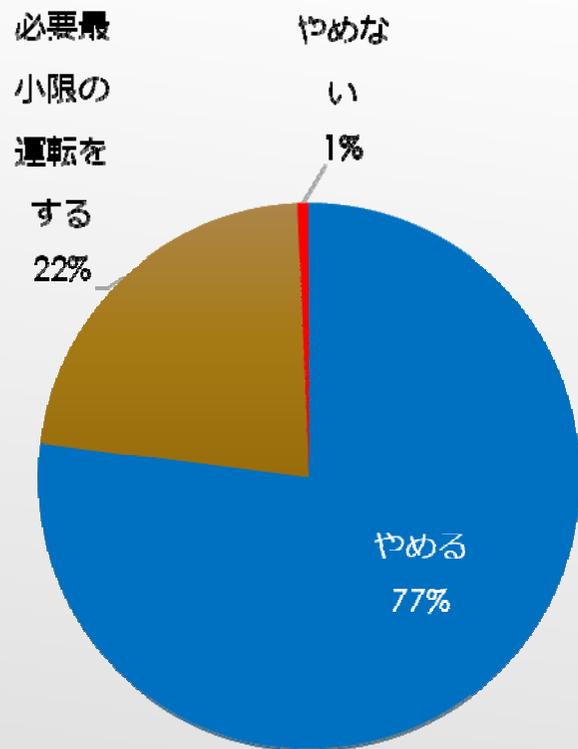


50代以下

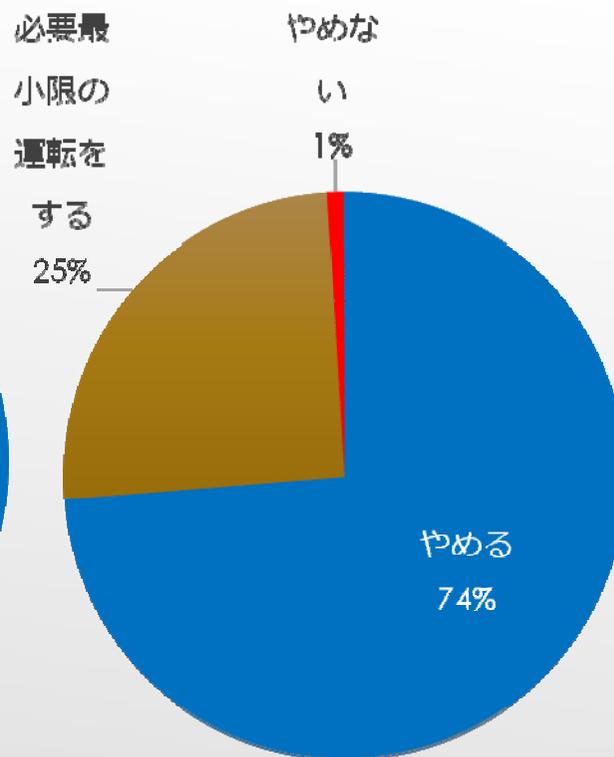


60代以上

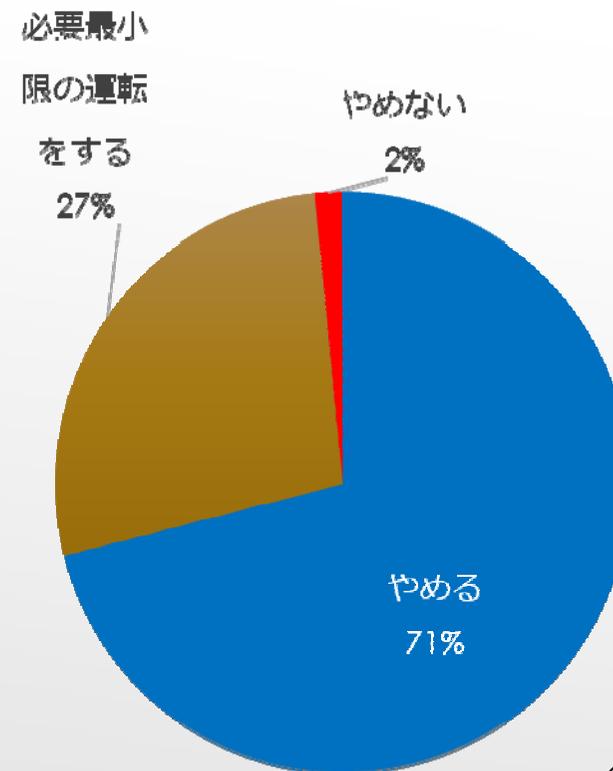
Q：この10年で自分の運転が変わりましたか？



道府県庁のある市/東京23区

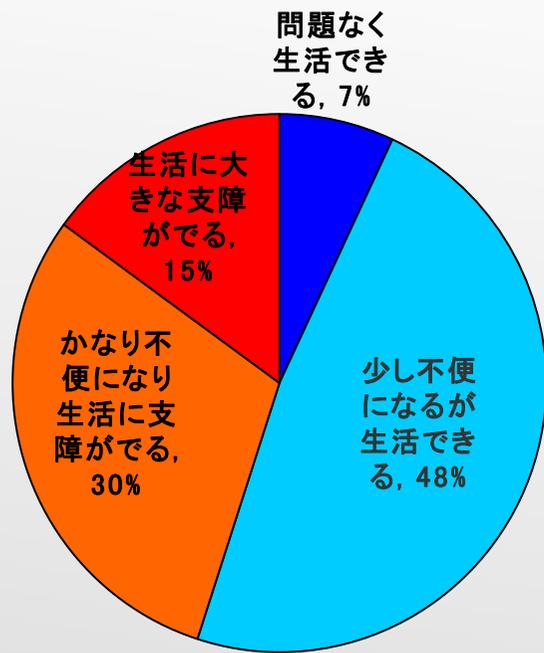


左以外の市

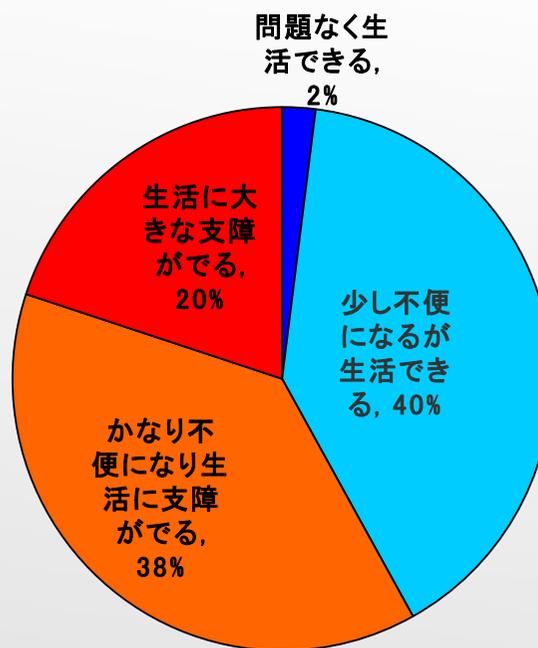


町/村

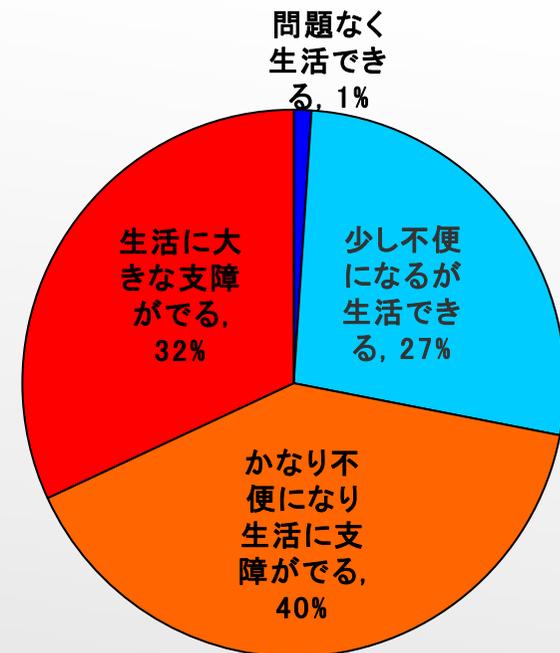
Q：もし認知症と診断されたら、
運転をやめますか？



道府県庁のある市/東京23区



左以外の市



町/村

Q : 車を運転できなくなると、
生活はどうなりますか？

○認知症患者が交通事故の加害者になった場合、監督義務者が損害賠償責任を負うことがある。

→現実問題と法的判断の差異

○認知症患者の強制的な免許返上は法的には可能だが、実際にはほとんど行われていない。

→運用面の整備

○認知症患者の事故は、他の高齢者よりも多いと考えられる。

→事故実体の正確な把握

○高齢者ドライバーは、個別の運転能力では低下を自覚しつつも、総合的には運転に自信を持っている。

→運転能力把握の機会。認知症の運転への影響の詳細調査

○多くのドライバーが、認知症と診断されれば免許を返上したい考えている。ただし現実には返上されていない。

→誰が、どの機会に返上を説得すれば効果的か

○免許返上後の移動の確保に不安が多い。

→特に地方部での移動手段の整備

まとめ

